

# 説苑



## 内務技監の今昔 (八)

——谷口三郎氏——「前號の續き」

清水生

### 谷口氏の道路に對する意見

前内務技監谷口三郎氏は或る會合の席上に於て道路問題に關してかやうに言つてゐる。

元來道路は文化發達の基礎的施設の一要素であることは歴史の示すところであるが、近年自動車の發達に伴つて交通上一段と重要視さるゝ様になつたのである。特に今次大戰に於ては作戦にも攻略地域の建設にも自動車交

通の愈々重要なことを體驗したのである。又國內交通に於ても自動車交通の必要を痛感するのである。せめては主要幹線網だけでも出來て居つたならば、時局輸送を一層圓滑ならしめたであらうと考へらるゝことが多々あるのである。過去は兎も角もこの時局に於て現實に明瞭に體得したこの結論と、今後施策の上に一日も速かに具現して行くことが最緊事であると信ずるのである。

と氏は時局輸送と道路問題について述べて、更に進んで。

御稜威の下、皇軍の赫々たる戦果に依つて、大陸に南方に國威は目醒しき進展をして居るが、大東亞建設の偉業は今後の長期に互る戦争と建設に依つて完成されるのであるから、その目的達成の推進力となる大東亞の交通問題については迅速に有ゆる角度から根本的の検討を加へて、一定の方針に従つて計畫的にこれが實現に向つて邁進すべきである。

### 交通の基本問題

と、大東亞交通問題の根本方針と計畫を確立するの必要を説き更に交通の基本問題に論及して。

交通施策は凡ての國策具現と密接不離の關係を持つて居る。従つてその計畫は凡て根本國策から割出されなければならぬのである。これがためには大東亞の廣域に互つて國策上必要な交通幹線網を先づ以て設定し、其の施設と運営については鐵道、道路、運河、港灣、飛行場、自動車、船舶、飛行機等夫々の機能と、地理的特殊

性と、輸送貨客の性狀數量とを查察して全體的に最も有効適切なる組合せを以て交通基本を樹立することが肝要である。元より交通に關係ある四圍の情勢のみならず、交通機關其のものに於ても絶へず、變化し進歩するのであるから、交通施策に於ても或る程度の變化に對應する用意の必要なるは勿論であるが。一般に交通施設の體型は一旦出來上つて終へば、種々の事情から容易に變更し難いものであるから、建設當初に於て、徹底的に各種交通の専門的知識を動員して、充分に綜合的施策の觀點から將來の國策交通の趨勢を洞察して、その根幹を定め、これに向つて凡ての施策を計畫的に導くことが共榮圈完成のため肝要であり又却つて早道である。

而して谷口氏は交通施設の過去に於ける經驗とその根本策の遲延とが、交通國策の遂行上大なる影響を與へて居ることに及んで。

刻下の交通狀況から觀ると、火急の交通對策に繁忙を極めて居ることは察するに餘りあるが、過去の交通施設

の經驗から、これを觀ても、根本策の遅延が應急施策を繁忙ならしめ以て、兩者間に相剋摩擦を生じて、遂に正條なる交通國策の遂行を困難に陥らしむる虞が多分にある。其の結果は平時交通の圓滑を期し難いのみならず、一朝有事の際の國家的要求に應ずることは愈々困難となるのである。

と論及して、兎に角道路交通問題は大東亞建設上には現下の緊急問題たることは勿論であるが、これまでの道路研究の範圍では路線の選定、道路築造技術等が主となつてゐたがために、道路輸送關係、國土計畫等に關する方面の研究が兎角遅れ勝ちであつたことを述べて、國土計畫、都市計畫、産業、防空等各見地より基本論から實際論に互つて繰々論ぜられて居る。

### 谷口氏と語る

そこで筆者は某日、麻布本村町にある谷口氏の自邸を訪ふたのであつた。謙讓にして溫厚なる氏は恐縮にも態々筆者を支關まで迎へて瀟洒なる洋室の應接室に導いて絶へず

微笑を浮べて對面されたが、野人にして禮を知らざる筆者は直截的に。

實は今日早朝にも拘らず御訪ね申上げた用件は道路改良會の機關誌「道路の改良」に於て「内務技監と今昔」と題して拙文を書いてゐますが、そのために是非一度御目にかゝりたくと參上した次第です。……ついでにはあなたが技監當時の御感想とでも……御伺ひしたいのです。と云へば、氏は。

私が技監當時と云ふのではないが、私自身が直接に仕事をやつたのは淀川の修補工事が一番長がかつたのである。こゝには現場に約十二年間も居て種々多少は努力も致したが、一體この淀川については高水工事は明治二十九年に起工されて同四十三年に至つて竣工を告げてゐますが、即ち第一期工事は確か沖野サンの時代であつたと思ふが、大正六年に於て非常の水害を蒙つたので、この非常洪水に鑑みて、十七年度から以降十六ヶ年に互つて増補工事を施行することになつて、この仕事に私が直接

携はつて昭和四年に漸く了へたので翌五年に進行式を擧げたやうな次第であつた。その他にも多少直接仕事に携はつたことはあるが、餘り永くはなかつたが……。

と氏は我國の商工業の中樞都市たる大阪市を控へて、この淀川の増補は獨り地方的利益のみならず、我國運の進展にも資すること多大なることや、兩岸の國有鐵道、軌道、道路等の交通機關の確保、附近農村振興等にも効果あることを語つて、更に話題は轉じて道路問題に及んで。

### 鐵道と道路

一體我國に於ける道路の感念に付いては非常に遅れるやうに思はれるのである。これは輸送問題についてである。勿論過去の諸外國に於てもさうであつた如く、我が國の陸上輸送は専ら鐵道に依存して來たが、交通機關としての道路及び鐵道の特性に關しては扱て置いて道路輸送の弾力性についてであるが、例へばこれを日常品に喩へるなれば、私は道路は風呂敷であつて、鐵道は鞆であるとも云へると思ふて居る。而して書籍の一冊を包ん

で懷中することも簡單であり、又幾つかの荷を重ねて背にすることも出来るのは風呂敷である。併乍ら鞆ではないからである。而かも中味の尠ない場合にも携帶する關係上には荷のある場合とは大差がないのであるが、例へば鞆を修理するのは容易ではないが、風呂敷の方は破れても直ぐに縫つて修理するのに容易である。即ち鐵道と道路とはこのやうなものである。

と氏は鐵道と道路とを比較されて、更にその異々の獨得の使命について。

勿論鞆には鞆獨得の特長があるのであつて、この數年來激増の一途を辿つて來た鐵道の輸送は、其の重要幹線に於ては既に能力の最頂點に達して居るやうであるが、軍需、民需の輸送物資はなほ停止するところがない状態で、これでは私は私は滯荷に因る有形無形の國家的損失は著しいものがあると杞憂するのである。とて、現下の輸送問題に及んだあとで。

道路の包容力は無邊であつて、有ゆる種類の車輛を動員して、一時に路上輸送を行ふことが出來て、その効果は大なるものである。そうして輸送の混亂を防ぐには複雑なる統制もいらないうで、只だ些かの考慮を拂ふはよく、かやうに考へれば道路は平時に於ては勿論輸送の責務を全うし、又一度非常に處しては忽ちその機能を幾數倍に膨脹して、國家的需要に應へ得るものは實に自動車道である。而かも輸送機關としての機能を鑑みると、鐵道は常用であつて、道路は常用と非常用とを兼ねると云へると私は思ふてゐる。

と述べられて。

然るに我國の道路については遺憾ながら大變その進歩發達が遅れて居るのは残念である。これには種々の原因もあらうが、明治初年以來我國の輸送は主として鐵道と海、即ち船舶でやつて居つた關係上、一貫したる道路政策については確定せなかつたためであらう。勿論三島知事のやうな人が居て盛に道路の開鑿等をやつたが、要す

るにこれまで確固たる計畫的にやらなかつたからに基因するやうに思はれるのである。

と、茲で谷口氏は獨逸等各國の道路について例を引いて續々述べられたあとに、言葉をついで。

### 自轉車の威力と道路の將來

私は今や我國は往年の島國ではなく、所謂大東亞廣域の盟主として、その責務は重大であるから、従つて有ゆる指導力を全からしめんが爲に、先づ交通路の確立を計るべきであると思ふてゐる。これには道路、鐵道、水路並に空路等夫々の適性に應じて十分にその機能を發揮せしめて、以て相互の圓滑なる連繫を保つて、平時非常時孰れにも對處して齟齬せしめざることが肝要であることは云ふまでもないが、我國の今後の交通策としては單に鐵道にのみ依存せずして、これに自動車道の弾力性のある特長を適當に配置して輸送の完璧を計らねばならないと思はれる。要するに一般に尙ほ自動車の威力と云ふものを考へないが、自動車の實現は道路交通の革命的變遷

であつて、將來は益々このことを考慮に置いて道路問題を考へないと大變な誤が生ずると思はれる。

と、將來に於ける自動車の輸送上に對する威力と道路施設に對して語られ。

全世界が道路を以て完全に結び付けられる日は遠い將來でないといふは考へてゐる。パミールの屋根を超え、シペリヤの平原を貫きて、歐亞を軸に收める大幹線道路の實現も決して夢物語りではないやうに考へられるのである。そうして我國は云ふまでもなく海を超えて、西に南に、東亞廣域内の必要のあらゆる方向に向つて幹線自動車道に對する建設裝備を完うして活躍を見る日の速かなることを望んでゐるが、これは全く單に輸送交通だけではなく、政治的文化的及び軍事的に偉力を以て貢獻して益々國運の隆盛を來たす所以であることを信じてゐる。と此の道路の持つ大なる使命と抱負について述べられて。

現下の自動車の燃料問題の如きに災ひされて、進むべき途を誤るやうなことがあつては大變である。自動車と

これが活動の母體たる道路とは國運の指針とを克く考へ併せて、燃料自給の方策と共に自動車道路の活用を計り更に進んで東亞廣域圈に對應する道路基本計畫を樹立せねばならないと思はれるのである。

#### 將來の技術方面は機械力に依る

谷口氏と筆者との話はこゝまで至つたが、茲で筆者は氏に對して將來に於ける技術方面の觀察について氏の意見を求めたところ、谷口氏は。

將來における技術的の方面に關しては私は單に道路建設と言はず、河川の改修にせよ、港灣の修築にしても、又種々の土木技術……土木事業には機械を使用する方面が益々發達して來るだらう。而してその機械力に依つて人的資源を大に緩和することも出來得るのみならず、殊に現在のやうに大いに勞働力の不足せる狀況に於ては、機械力を益々高度に發揮せねばならないのである。所謂土木技術……土木事業にも機械化部隊が必要となつて來る。事變に於て益々その必要を痛切に考へられるのであ

るが、これには機械を作ることと、これを使用すること  
に重點を置かねばならないのではないか。

と云はれたが、筆者も亦將來大東亞共榮圈の經濟建設には  
どうしても先づこれが基本となるべき道路、港灣、治水等  
所謂土木專業の建設をなさねばならないことに鑑みて、以  
て土木機械化部隊……これは誠に肝要のことと首肯された  
のであつた。筆者と氏との話題は次から次へと轉じたが、  
更に關門隧道について尋ねたところ、氏は。

關門隧道工事は私が技監當時は既に着手して居つたか  
ら、従つて直接には私は關係もせないが、あの工事は鐵  
道のトンネルと比較して岩質であり、トンネルの大きさ  
も一本にして主としてバスを通すのが目的であるが、勾  
配の如きも鐵道トンネルと比較すると、急にして距離は  
海底に於て約〇キロ、兩側の坂を續いて約〇キロとなつ  
てゐる。本土と九州との聯絡上非常に總ての點に於て便  
利であることは勿論、經濟的發展に資するところは大で  
ある。

と、種々關門隧道について語られたが、この間大陸方面に  
旅行されたやうでしたかと云へば、氏は。

滿洲國が自動車國道建設の必要上の見地から先年これ  
が計畫を立てつゝあつたが、愈々實行することに決定し  
て、三ヶ年計畫を以て大連からハルビンまでを結ぶ幹線  
の起工に着手することとなつて、これが起工式を去る十  
月二十四日に交通部主催で擧式したので、招かれて行つ  
て來ましたが、滿洲國は縦と横の幹線自動車國道を樹立  
しつゝある。即ち縦てのがこの度起工する路線である。

私は表面關係して居ないが、多少この計畫について相談  
を受けたこともあるので、將來益々發展する滿洲國のこ  
とを思へば、兎も角自動車の威力とを考へ併せて交通路  
線網の確立は最も緊要なことと思ふのである。

と氏は滿洲國の交通政策等について一、二話されたのであ  
つた。筆者と氏との談話は大體以上にして時間も大分経過  
したので、この位に止めて辭去したのであつた。勿論この  
談話の記事にして若し誤りがあつたなれば、その文責は筆

者にあることを茲に斷つて置く次第である。

### 建設技術に指導的役割

現在諸般の情勢を以てすれば、大東亞戰爭は愈々本格的なる長期戦に移行しつつある。而してこの大東亞戰爭は畢竟經濟戦であると同時に、科學技術戦であるとも云へるのである。更れば大東亞戰爭下の生産力の擴充といふことは愈々意義重大となつて來るのであるが、これには、彼の十八世紀末の英國産業革命の昔に遡るまでもなく、近代産業の發展と向上は科學の進歩と技術の發展と不可分の關係にあつて、科學技術の發展なくしては近代産業の發展は到底望めないことは明瞭である。併乍ら今回國家が要請する生産力の増強も重要資源地域の開發と物資の輸送に極力その力を致さねばならないのは勿論である。殊に我國が盟主となつて企圖しつつある大東亞建設の一大事業たるや、誠に千古未曾有の大事業たると同時に、その建設を對象とする地域も頗る廣範にして且つ複雑多岐を極めてゐるのである。この諸國土に確固たる有機的統合は交通機關が持つところ

の任務である。而して更にその異々の國土に於て最高能率の活用をなさしむるには、それが基礎たる港灣、治水、道路等有ゆる土木事業の完成に俟たねはならないのである。

茲に將來益々技術家の任務は重且大を加重して來るのである、前内務技監谷口三郎氏は既にこゝに達見して道路交通並に資源の開發、物資の交流、生産力の擴充等諸般に互つて國土計畫的の見地の下に我が技術を益々發揮せしめ、以て大なる使命を果たすのは建設技術に携はるものの大なる責務であるとして居る。氏は人に接するに頗る謙讓にして遇ふ人をして却つて恐縮するのである。筆者も氏とは前後通じて只だ一度の對面ではあるが、その初對面の印象を卒直に云ふを許さるゝなれば、誠に圓滿にして何等飾りけのない所謂人間味豊なる人と思はれたのであつた。而かも其の頭腦は明晰にして優秀なる技術家としては勿論、技術者に往々にしてよくある偏狹のところがない。頗る常識に富み克く時勢を達觀して一意建設技術に精進して居られるやうに思はれるのである。現下非常時の我國は前途益々幾多



の土木建設事業を遂行し以て國運の發展に資せねばならぬに當つて、幸にして谷日氏の如き優秀なる技術者が技術報國の燃ゆるが如き精神を以て或は後進技術者を指導し、或は建設的指導に大なる役割を果たすことは誠に國た家のめ

幸甚であると共に、筆者は氏の如き有賢有能の士が我國内に於ては勿論、東亞諸邦の技術建設方面に直接と間接とを問わず、益々指導的に奮闘努力せられんことを望んで拙筆を擱くことにする。

## 多忙人の讀書法

長岡生

世間の人が貴方は一ヶ年間に四六倍判二百五十頁の百科辭典三拾卷一萬五千頁を大體目を通し其の内容に通じてゐるといはれたならば誰しも驚かざる者はあるまい、イヤ私は多忙にて一冊の雜誌すら読んでゐないと反噬するであらう。

だが苟しくも現代人として少くとも一種の新聞を讀まざる人はないと思ふが、此の新聞を讀んでる人が即ち三拾卷の百科辭典を通讀した譯になる、一ヶ年間新聞(一日六頁)を頁數に直すと斯の如き尨大なるものとなる。

毎日の新聞を一ヶ年分山の如く積み重ねサアこれを御覽なさいと云はれても誰も手を出す者がない、頁をめくるとすら大變である。それなら此の大部の物をどうして讀んだかと云へば毎日朝の廿分、夕の十分の集積が此の大事業をなし遂げたのである。即ち三拾卷の百科辭典を一ヶ年間に讀破したと同様の結果を擧げた譯である。

人は忙しくて暇がないから讀書は出来ぬと云うて居るが、此の新聞式讀書法こそ簡易にして聰明なる讀書法である。先づ讀まんと希望する書物を毎朝新聞の延長として十分乃至廿分だけ讀む(出勤時間の差岡へる人は起床をそれだけ早めればよい)

又夜分は夕刊の延長として十分間讀書をとる様にすれば、假りに一日廿分間の讀書時間としても一ヶ年百廿時間の修養時間を得ることが出来る。

如何に尨大なる讀物と云へども毎日數頁宛讀めば何時かは讀了する事が出来る、小説でも「里見八犬傳」、「レ・ミゼラブル」、「戦争と平和」の如き大部のものは大概の人が通讀して居らぬが新聞の連載小説を讀む如くに毎日數頁を讀めば容易に讀了する事が出来る、厚冊の書でも此くの如くであるから、普通の教養書の如きは實にたやすいことである。

吾人は此の讀書法を以つて眞の讀書法となすものではない、これは一錢貯金の奨励の如きものであつて一つの讀書奨励の方法である。一錢貯金は貯蓄心の増進にあつて決して一錢に満足するものではない、十分間讀書も何時迄も此の方法に據れといふのではない、はいり安い事より入り、次第に其の時間を増し一日一時間にて眞の教養時間を持つ事が出来る様になれば結構である。

一日の新聞閱讀は一日に常識が歩足を合して進んで居るが、良く選擇せられし書物を讀む事は明日の知識の涵養である、多忙にて讀書時間を持たざる人々には是非此の讀書法を行つて戴かねばならぬ、個人のためにも、明日の國家のためにも。